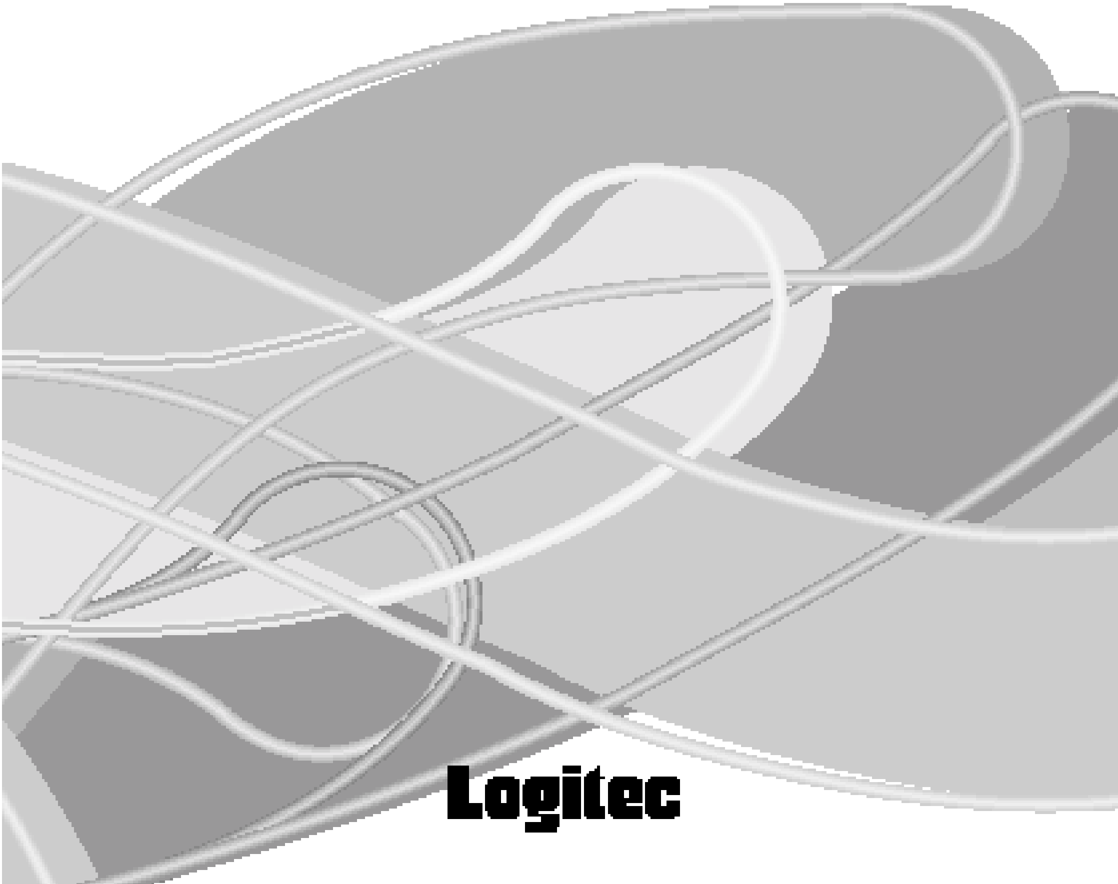
LHD-ESU/HSU V02A

SCSI/USB HARDDISK UNIT

HDユニット・ユーザーズマニュアル

LHD-ESUシリーズ
LHD-HSUシリーズ



Logitec

目　次

取扱い上のご注意 1
付属品の確認 5
ロジテックソフトウェア使用権許諾契約書 6
ごあいさつ 8
ご注意 8

共通編 9
共通編: **１　製品の特徴** 9
共通編：２　各部の名称と機能 10
共通編：３　設置方向について 12
共通編：４　カラープレートの交換 13

SCSI **編** 15

USB **編** 43

本書の使い方

本製品はSCSIインターフェース、USBインターフェースのどちらにも接続することができます。そのため、本マニュアルはSCSI編とUSB編に分かれています。最初に共通編をお読みになった後は、SCSI、もしくはUSBのうち、使用するインターフェースに対応した方をお読みください。

必ずお読みください

取扱い上のご注意

■本製品を正しく安全に使用するために

・本書では製品を正しく安全に使用するための重要な注意事項を説明しています。必ずご使用前にこの注意事項を読み、記載事項にしたがって正しくご使用ください。
・本書は読み終わった後も、**必ずいつでも見られる場所に保管しておいてください。**

■表示について

・この「取扱い上のご注意」では以下のような表示（マークなど）を使用して、注意事項を説明しています。内容をよく理解してから、本文をお読みください。

⚠ **警告**	この表示を無視して取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う危険性がある項目です。
⚠ **注意**	この表示を無視して取扱いを誤った場合、使用者が障害を負う危険性、もしくは物的損害を負う危険性がある項目です。

三角のマークは何かに注意しなければならないことを意味します。三角の中には注意する項目が絵などで表示されます。例えば、左図のマークは感電に注意しなければならないことを意味します。

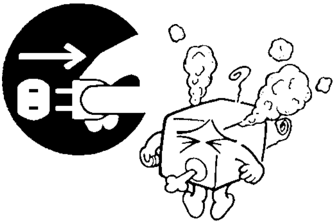
丸に斜線のマークは何かを禁止することを意味します。丸の中には禁止する項目が絵などで表示されます。例えば、左図のマークは分解を禁止することを意味します。

塗りつぶしの丸のマークは何かの行為を行なわなければならないことを意味します。丸の中には行なわなければならない行為が絵などで表示されます。例えば、左図のマークは電源コードをコンセントから抜かなければならないことを意味します。

⚠ 警告

●万一、異常が発生したとき。

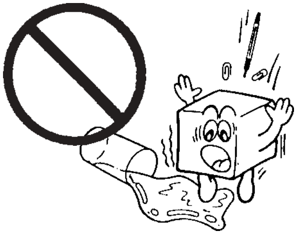
本体から異臭や煙が出た時は、ただちに電源コードをコンセントから抜いて販売店にご相談ください。



●異物を入れないでください。

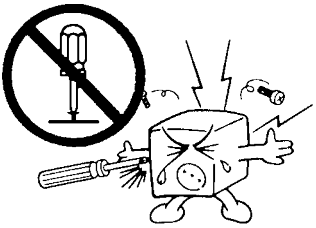
本体内部に金属類を差し込まないでください。また、水などの液体が入らないように注意してください。故障、感電、火災の原因となります。

※万一異物が入った場合は、ただちに電源を切り販売店にご相談ください。



●分解しないでください。

ケースは絶対に分解しないでください。感電の危険があります。分解の必要が生じた場合は販売店にご相談ください。

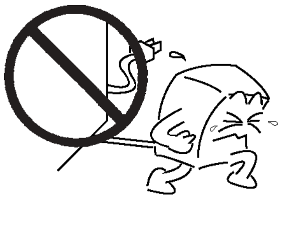


●正しい電源で使用してください。

電源コードは必ずAC100Vのコンセントに接続してください。

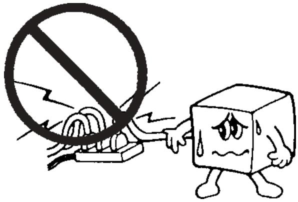
●電源コードを大切に。

電源コードは破損しないように十分ご注意ください。コード部分を持って抜き差ししたり、コードの上にものを乗せると、被服が破れて感電／火災の原因となります。



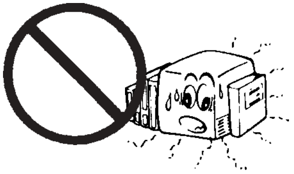
⚠ 注意

●電源コードはなるべくコンセントに直接接続してください。タコ足配線や何本も延長したテーブルタップの使用は火災の原因となります。

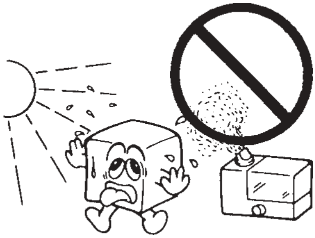


●電源コードは必ず伸ばした状態で使用してください。束ねた状態で使用すると、過熱による火災の原因となります。

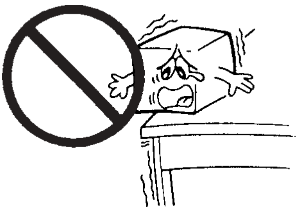
●通風孔はふさがないでください。過熱による火災、故障の原因となります。



●高温・多湿の場所、長時間直射日光の当たる場所での使用・保管は避けてください。また、周辺の温度変化が激しいと内部結露によって誤動作する場合があります。

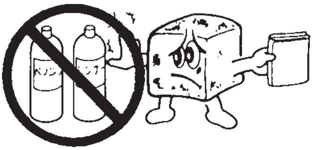


●本体は精密な電子機器のため、衝撃や振動の加わる場所、または加わりやすい場所での使用／保管は避けてください。



⚠ 注意

●本体が汚れた場合は必ず電源を切ってから、柔らかい布に水または中性洗剤を含ませ軽くふいてください。（本体内に垂れ落ちるほど含ませないよう気をつけてください。）揮発性の薬品（ベンジン・シンナーなど）を用いますと、変形・変色の原因になる事があります。



●本製品を長期間使用しない場合は、電源コードをコンセントから抜いておいてください。

付属品の確認

○ HD ユニット 1台
○ USB ケーブル 1本
○ SCSI ケーブル 1本
○縦置き用スタンド 2個
○横置き用ゴム足 1シート
○カラープレート 3枚
○カラーシート 1シート
○「LogitecWare」CD-ROM 1枚
○保証書／ユーザー登録カード 1枚
○ HD ユニット・ユーザーズマニュアル .... 本書
○ SCSI インターフェースボード「LHA-600U」（/P モデルのみ） .... 一式

※カラープレートのうち、１枚は HD ユニットに装着済みです。

＊MS®、Windows ®は米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国での登録商標です。
Macintosh、Mac OSは米国アップルコンピュータ社の登録商標です。本書に記載されているパソコンの機種名等は各社の商標または登録商標です。

ごあいさつ

この度は弊社製品をお買い上げいただきまして、誠に有り難うございました。本書は製品に関する設定／接続方法、機能／仕様等についてのご説明をいたしますので、ご使用前に必ずご一読いただきますようお願いいたします。

弊社製品によって、お客様のパソコン環境がより便利なものとなりますよう心からお祈りいたします。

ご注意

①本書の一部または全部を弊社に無断で転載することは禁止されております。

②本書の内容については万全を期しておりますが、万一ご不審の点がございましたら、弊社テクニカルサポートまでご連絡くださいますようお願いいたします。

③本製品および本書を運用した結果による損失、利益の逸失の請求等につきましては、②項に関わらず弊社ではいかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。

④本書に記載されている機種名、ソフトウェアのバージョンなどは、本書を作成した時点で確認されている情報です。本書作成後の最新情報については、弊社テクニカルサポートまでお問い合わせください。

⑤本製品の仕様、デザイン及びマニュアルの内容については、製品改良などのために予告なく変更する場合があります。

⑥本製品に保存したデータが、ハードウェアの故障、誤動作、その他どのような理由によって破壊された場合でも、弊社での保証はいたしかねます。万一に備えて、重要なデータはあらかじめバックアップするようにお願いいたします。

⑦弊社は、本製品の仕様がお客様の特定の目的に適合することを保証するものではありません。

⑧本製品は、人命に関わる設備や機器、および高い信頼性や安全性を必要とする設備や機器（医療関係、航空宇宙関係、輸送関係、原子力関係等）への組み込み等は考慮されていません。これらの設備や機器で本製品を使用したことにより人身事故や財産損害等が発生しても、弊社ではいかなる責任も負いかねます。

⑨本製品は日本国内仕様ですので、本製品を日本国外で使用された場合、弊社ではいかなる責任も負いかねます。また、弊社では海外での（海外に対してを含む）サービスおよび技術サポートを行っておりません。

共　通　編

共通編: 1　製品の特徴

本製品はSCSI／USB両対応（Duoポート）のHDユニットです。

■本製品の特徴

○高速性能を誇るSCSIインターフェース（UltraSCSI）、ホットプラグが可能なUSBインターフェースのどちらにも接続することができます。本製品をそれぞれのインターフェースに接続した場合の特徴については、SCSI編、USB編をご参照ください。

○本製品に内蔵されたハードディスクドライブには､大容量と高信頼性を可能にするGMRヘッドが搭載されています。この最新技術により、20GB以上の大容量が実現され､デジタルビデオデータや高解像度のデジタルカメラデータなどにも余裕で対応できます。

○コンパクトなボディは設置に場所を取りません｡また､電源を内蔵していますから、ACアダプタでコンセントをふさいでしまうことがありません。

○ Windows／Macintoshのどちらの環境でも使用することができます。

ご注意

- **本製品を**SCSI**インターフェース、**USB**インターフェースの両方同時に接続することはできません。**
- **スリープモード､サスペンドモードなどのような省電力モードには対応していません。**

共通編：２　各部の名称と機能

①電源表示ランプ（青）

本製品の電源が ON になると内部のランプ（青）が点灯します。

②アクセス表示ランプ（赤）

本製品に対してアクセスが行われると内部のランプ（赤）が点灯します。

③ USB シリーズ B コネクタ

本製品を USB 接続する場合に、パソコン本体と接続します。

④ディップスイッチ

本製品をSCSI接続する場合に、本製品のSCSI IDナンバーと、オートターミネーション機能の有効／無効を設定します。本製品をUSB接続する場合には、設定の必要はありません。オートターミネーション機能については、本書の SCSI 編をご参照ください。

⑤ターミネータ表示ランプ（赤）

本製品を SCSI 接続する場合に、オートターミネーション機能によって内蔵ターミネータが有効になると点灯します。オートターミネーション機能については、本書の SCSI 編をご参照ください。

⑥ SCSI コネクタ OUT

本製品を SCSI 接続する場合に、増設 SCSI 機器と接続します。

⑦ SCSI コネクタ IN

本製品を SCSI 接続する場合に、パソコン本体（SCSI インターフェース）と接続します。

⑧電源スイッチ

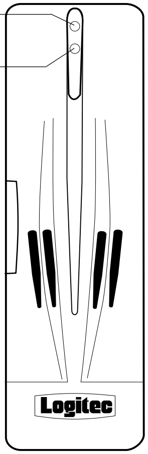
本製品の電源を ON/OFF します。

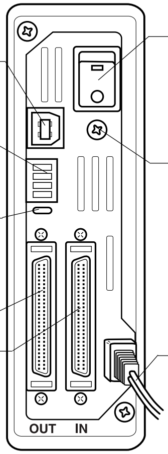
⑨アース端子

太くて短い導線などで、パソコン本体のフレームグランド端子と接続すると、静電気などの外部ノイズに対して強くなります。

⑩電源コード

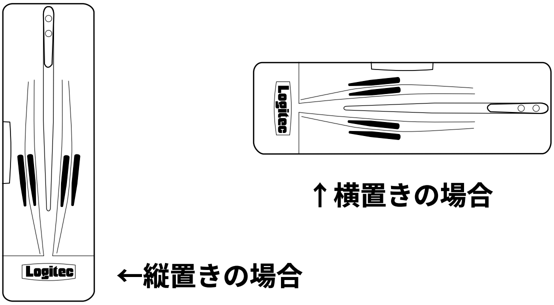
AC100V のコンセントに接続します。


①電源表示ランプ（青）
②アクセス表示ランプ（赤）
Logitec


③ USB シリーズ B コネクタ
④ディップスイッチ
⑤ターミネータ
表示ランプ（赤）
⑥ SCSI コネクタ OUT
⑦ SCSI コネクタ IN
⑧電源スイッチ
⑨アース端子
⑩電源コード
OUT
IN

共通編：３　設置方向について

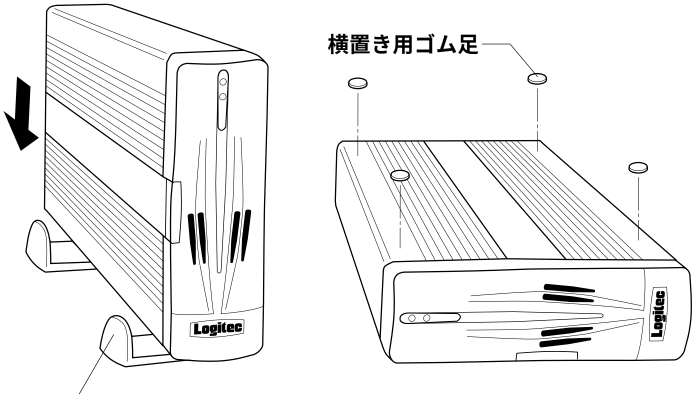
本製品は縦置き、横置きのどちらでも設置できますが、それぞれ以下のような方向で設置してください。



↑横置きの場合

←縦置きの場合

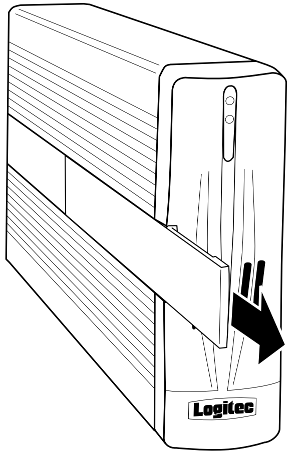
縦置きの場合は付属の「縦置き用スタンド」をご使用ください。また、横置きの場合は付属の「横置き用ゴム足」を底面に貼付してください。



上図は底面を上にするため、通常の設置方向と逆になっています。ご注意ください。

共通編：４　カラープレートの交換

　カラープレートを取り外すには、下図のように前面側にスライドして引き出してください。



　新しいカラープレートを取り付ける時は、溝にそってカチッとロックするまでスライドしてください。
　付属のカラーシートを使用したい場合は、カラープレートと同じ大きさに切り、クリアのカラープレートの下に入れて取り付けてください。

Memo

SCSI 編

目　次

第１章　はじめに 17

１．１　SCSI 接続の概要 17

１．２　使用環境について 18

第２章　接続について 20

２．１　接続の前に 20

２．２　接続の手順 23

２．３　他の SCSI 機器との併用について 26

第３章　接続後の作業 28

３．１　Windows Me，98/95 の場合 28

３．２　Windows 2000 の場合 31

３．３　Windows NT 4.0 の場合 34

３．４　Mac OS の場合 35

第４章　補足事項 36

４．１　トラブルシューティング 36

４．２　オートターミネーション機能について 38

４．３　Macintosh PowerBook に接続する場合 40

４．４　オプション品について 41

第１章 はじめに

１．１　SCSI 接続の概要

本製品をSCSI インターフェースに接続する場合、以下のような特徴があります。

○ UltraSCSI への対応によって、最大20MB/s（理論値）の高速データ転送が可能です。

○ターミネータを内蔵しています。また、オートターミネーション機能を持っているため、終端（SCSI インターフェースから最も遠い位置）に接続すると自動的に内蔵ターミネータが有効になり、その他の位置に接続すると自動的に無効になります。（オートターミネーション機能は無効に設定することも可能です。）

○内蔵ターミネータの状態は、背面のターミネータ表示ランプで確認することができます。

ご注意

SCSI 接続の場合、本製品をホットプラグ（電源ON の状態での接続／取り外し）することはできません。

１．２　使用環境について

1

■接続可能なパソコン本体

本製品をSCSIインターフェースに接続する場合、以下のパソコンで使用することができます。詳細な機種については接続に使用するSCSIインターフェースボードに依存しますので、SCSIインターフェースボードのマニュアルをご参照ください。

各社	DOS/Vパソコン
日本電気株式会社	PC98-NXシリーズ
	PC-9800シリーズ
アップルコンピュータ社	Macintoshシリーズ

ご注意

- **発売されているすべての機種で動作確認を行うのは不可能です。一部に対応できない機種が存在する可能性があることはご承知おきください。**
- PC-9800**シリーズでは認識される最大容量は**32GB**までになります。そのため、本製品がこれを越える容量を持っていたとしても、**32GB**以上の領域を使用することはできません。また、領域は分割しないで、全領域一括確保でご使用ください。**
- **「**/P**」モデルに付属の**SCSI**インターフェースボードを使用した場合、**PC-9800**シリーズでは、本製品からのシステム起動はできません。**
- Macintosh**シリーズは、**Macintosh SE/30**以降でハードディスクを内蔵した機種に限定されます。（**iMac**シリーズ、**iBook**シリーズを除く）**

■対応 OS

　本製品を SCSI インターフェースに接続する場合、以下の OS で使用することができます。（いずれも日本語 OS のみ。また、パソコン本体が対応していない OS では使用できません。）

マイクロソフト株式会社	Windows Me，98/95
	Windows 2000，NT 4.0
アップルコンピュータ社	Mac OS 7.6 ～ 9.1

（「/P」モデルの場合は、付属 SCSI インターフェースボードの制限から Mac OS 8.1 以降になります。）

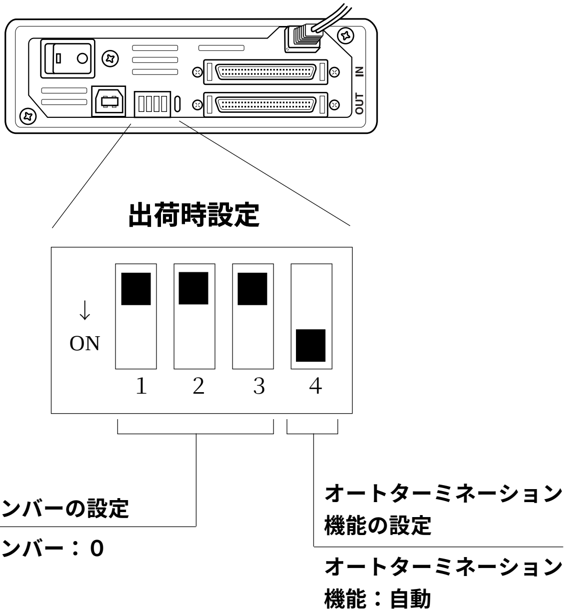
ご注意

PC-9800 シリーズ用の Windows 95 を使用する場合、PC-9800 シリーズ用 BIOS ROM を搭載していない SCSI インターフェースに本製品を接続することはできません。「/P」モデルは、付属の SCSI インターフェースボード「LHA-600U」がこの制限に該当するため、PC-9800 シリーズ用の Windows 95 では使用できません。（PC-9800 シリーズ用 Windows 98 では問題ありません。）

第2章　接続について

2．1　接続の前に

本製品の背面にはディップスイッチがあり、本製品の SCSI 接続に関する設定（SCSI ID ナンバー、オートターミネーション機能）を行います。必要に応じて設定を確認／変更してください。（本製品以外に SCSI 機器を使用しない場合は、出荷時設定から変更する必要はありません。）



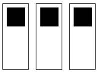
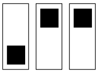
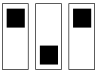
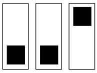
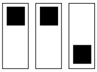
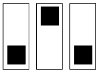
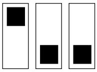
ご注意

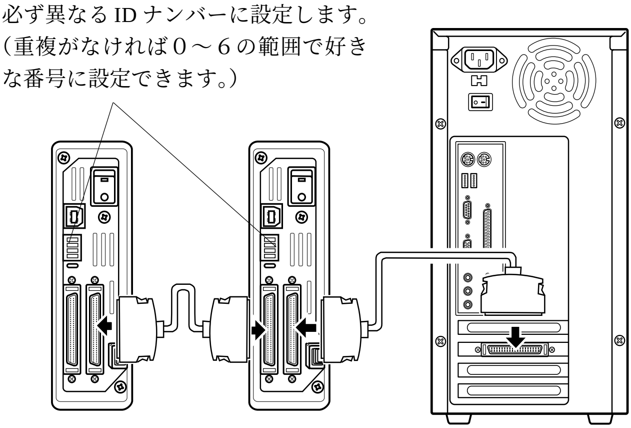
ディップスイッチの設定を変更する場合は、本製品の電源が OFF になっている状態で変更してください。電源がONになったままで変更しても認識されません。

■ ID ナンバーの設定

「ID ナンバー」は SCSI 機器を区別するための番号です。「０」～「６」の範囲で任意の番号に設定できますが、併用する SCSI 機器と重複があってはいけません。（例えば、同じSCSIインターフェースにIDナンバー「０」に設定した機器が２台接続されていてはいけません。どちらかを別の番号にする必要があります。）

もし、本製品以外にSCSI機器を使用しない場合は、出荷時設定のまま、ID ナンバー「０」でご使用ください。

IDナンバー：０	IDナンバー：１	IDナンバー：２	IDナンバー：３
↓ ON  1 2 3	↓ ON  1 2 3	↓ ON  1 2 3	↓ ON  1 2 3
IDナンバー：４	**IDナンバー：５**	**IDナンバー：６**	
↓ ON  1 2 3	↓ ON  1 2 3	↓ ON  1 2 3	

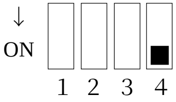
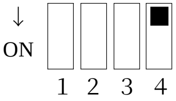


■オートターミネーション機能の設定

SCSI 接続では終端（SCSI インターフェースから一番遠い位置）になる機器にターミネータと呼ばれる部品を接続して、信号を安定させます。

本製品はこのターミネータを内蔵しています。また、オートターミネーション機能を持っているため、本製品を終端の位置に接続すると自動的に内蔵ターミネータが有効になり、終端以外の中間の位置に接続すると自動的に無効になります。（内蔵ターミネータの状態は、背面のターミネータ表示ランプで確認することができます。）

本製品背面のディップスイッチ４は、オートターミネーション機能を使用するかどうかを設定します。出荷時設定で「自動（オートターミネーション機能を使用する）」に設定されていますので、**通常の場合は出荷時設定のままご使用ください。**

オートターミネーション機能	
自動（出荷時設定）	無効
	

ポイント

- **オートターミネーション機能を「無効」設定にすると、内蔵ターミネータは常に無効になります。この状態で本製品を終端に接続したい場合は、外付けターミネータが必要です。**
- **オートターミネーション機能について詳しく知りたい場合は、第４章「４．２　オートターミネーション機能について」をご参照ください。**

２．２　接続の手順

　ここでは本製品のみをSCSIインターフェースに接続する手順を説明します。例としてあげられているパソコン本体はDOS/V パソコンですが、基本的な接続方法はその他のパソコンでも同じです。

　ただし、本製品を Macintosh PowerBook シリーズの旧機種（HDI 30 ピンの SCSI コネクタを持つ機種で、Macintosh PowerBook2400、3400、G3 を除くもの）に接続する場合は、特殊な接続方法になりますので、第４章の「４．３　Macintosh PowerBook に接続する場合」をご参照ください。

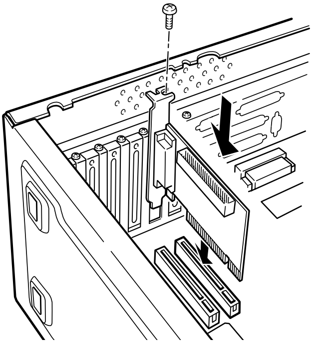
重要なご注意

- **接続の前に必ず本製品、パソコン本体、およびそこに接続されたすべての周辺機器の電源を OFF にしてください。**
  また、SCSI インターフェースを新規接続する場合は、必ずパソコン本体の電源コードをコンセントから外してください。SCSI インターフェースを接続する際に、内部ショートが発生すると電源がONになってしまう場合があります。危険防止のため、必ず電源コードをコンセントから外してください。

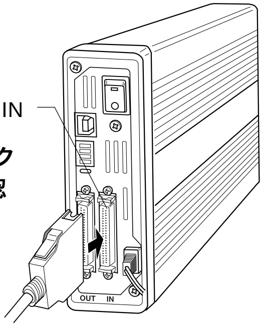
- **本製品の SCSI コネクタは接点にピンを使用しています。そのため、間違ったコネクタに差し込んだり、無理に力を加えるとピンが曲がってしまいます。**
  ケーブル接続時は SCSI コネクタの種類と方向を確認して、正面から接続してください。接続しにくい場合は、無理に力を加えないでピンが曲がっていないかどうか確認してください。

2

①SCSI インターフェースを内蔵していないパソコン本体の場合は、最初に SCSI インターフェースボードを接続します。詳細についてはSCSI インターフェースボードのマニュアルをご参照ください。



②本製品の SCSI コネクタ IN に、本製品付属ケーブルを接続します。

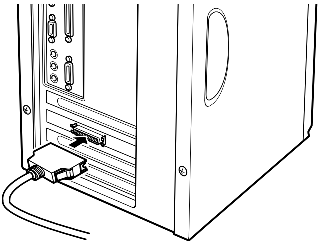


ご注意

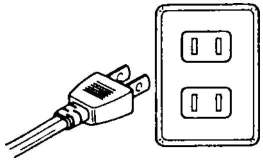
本製品のSCSI**コネクタは必ず以下のようにご使用ください。逆にするとオートターミネーション機能が正常に動作しません。**

SCSI **コネクタ** IN....... SCSI **インターフェース側（パソコン接続用）**
SCSI **コネクタ** OUT ..**終端側（増設** SCSI **機器接続用）**

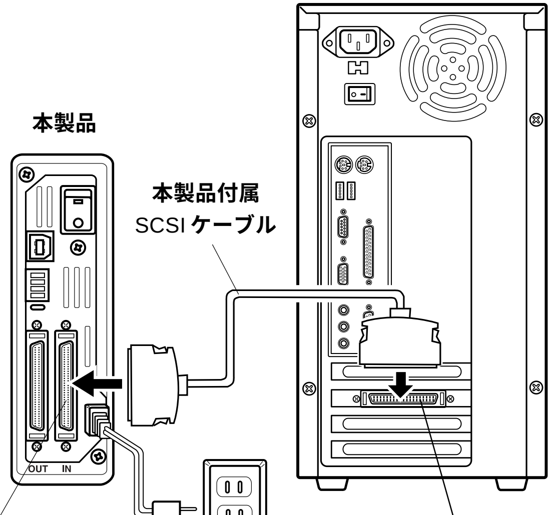
③本製品付属ケーブルのもう片方のコネクタを、SCSI インターフェースの外部 SCSI コネクタに接続します。



③本製品の電源コードを AC100V のコンセントに接続します。



以上で接続は終了です。下の接続図と比べて、間違っていないかどうかを確認してください。

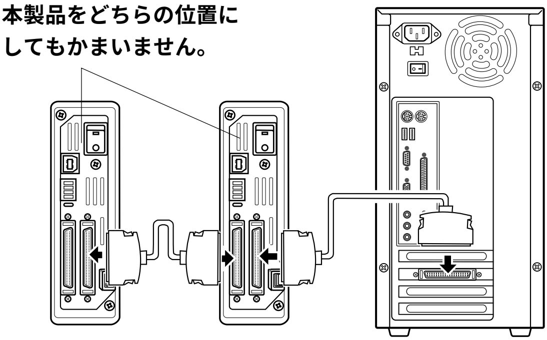


２．３　他の SCSI 機器との併用について

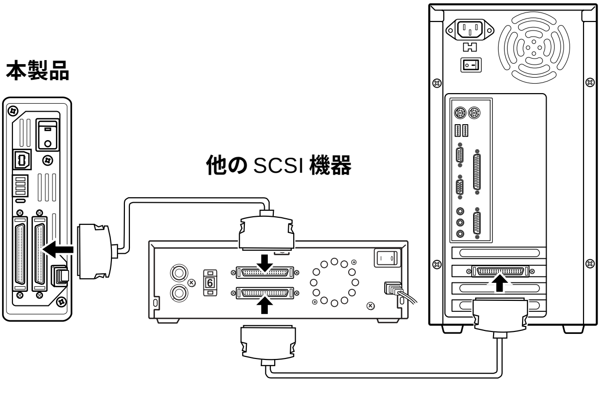
SCSI 規格では、複数の SCSI 機器を数珠つなぎにして１つの SCSI インターフェースに接続することができます。本製品を他の SCSI 機器と併用する場合は、下の接続図のように接続してください。その際、次ページの注意事項にご注意ください。

2

■オートターミネーション機能を持つ機器を増設する場合



■オートターミネーション機能を持たない機器を増設する場合



■注意事項

・接続台数は原則的に以下の通りです。詳細についてはSCSIインターフェースボードのマニュアルをご参照ください。

UltraSCSIの場合	３台まで
FastSCSIの場合	７台まで

・ケーブル長は内蔵ケーブルも含むすべての合計が3m以下でなければなりません。（ケーブルは短ければ短いほど動作が安定します。）

・IDナンバーは必ず重複しないように設定してください。

・オートターミネーション機能を持つ機器は、必ずSCSIコネクタINがSCSIインターフェース側に、SCSIコネクタOUTが終端側になるようにケーブルを接続してください。
接続が終了したら、SCSI機器の電源をONにして、終端に接続した機器のターミネータ表示ランプが点灯し、その他の位置に接続したSCSI機器のターミネータ表示ランプが消灯することを確認してください。

・オートターミネーション機能を持たない機器を混在させる場合は、終端以外の位置（中間の位置）に接続してください。本製品を終端に接続することによって、外付けターミネータが不要になります。(オートターミネーション機能を持たない機器が混在していても、本製品のSCSIコネクタINがSCSIインターフェース側に、SCSIコネクタOUTが終端側になるように接続していれば、本製品のオートターミネーション機能は正常に機能します。)

ご注意

SCSI機器の中には、ターミネータを内蔵しているがオートターミネーション機能を持っていないものもあります。このようなSCSI機器を併用する場合は、終端以外の位置に接続して、内蔵ターミネータを「無効」に設定してください。
不要に多くのターミネータが有効になっていると、過電流で機器を損傷する場合があります。

第３章　接続後の作業

３．１　Windows® Me，98/95 の場合

■ドライバのインストール

SCSI インターフェースを新規接続した場合（「/P」モデルの場合など）は、接続終了後、Windows Me，98/95 のシステムを起動して、SCSI インターフェースのドライバをインストールしなければなりません。

この作業は使用する SCSI インターフェースによって異なりますので、SCSI インターフェースのマニュアルにしたがってインストールを行ってください。

3

参考

- **既存のSCSIインターフェースに本製品を接続した場合（すでにドライバがインストールされている場合）は、ドライバのインストールは必要ありません。**
- **ドライバのインストールが完了した時点では、まだ本製品のドライブアイコンは「マイコンピュータ」に登録されません。これが登録されるのは本製品のフォーマットが終了してからです。**
- **SCSI インターフェースによっては Windows Me，98/95 標準のドライバを使用するため、ドライバが不要な場合もあります。ご使用の SCSI インターフェースのマニュアルでご確認ください。**

■ハードディスクのフォーマット

次にハードディスク（本製品）のフォーマットを行います。Windows Me，98/95 の場合、フォーマットは付属のユーティリティ「ディスクフォーマッタ」で行います。

本製品付属の「LogitecWare」CD-ROM を CD-ROM ドライブにセットすると自動起動する「セットアップランチャー」から、「ディスクユーティリティ」をインストールしてください。（下図参照）

1.「ディスクユーティリティ」のアイコンを１回クリックして、選択状態にします。

2.「セットアップの起動」をクリックします。

3

ポイント

ディスクユーティリティには「ディスクフォーマッタ」以外にも、「ディスクイジェクトツール」と「MO 補助ドライバ」が含まれていますが、本製品を使用する上で必要なのは「ディスクフォーマッタ」のみです。（他のユーティリティをインストールしても特に害はありません。）

インストールが終了したら、ディスクフォーマッタはタスクバー上の「スタート」ボタンをクリックして、「プログラム」→「Logitec」とポイントし、「ディスクフォーマッタ」をクリックすることで起動できます。

また、インストール時、デスクトップ上にショートカットアイコンを作成した場合は、デスクトップ上の右のアイコンをダブルクリックしても起動することができます。

ディスクフォーマッタが起動したら、本製品のフォーマットを行います。フォーマットの手順については、ディスクフォーマッタのヘルプメニューから「トピックの検索」を選択し、表示されるヘルプウィンドウで「操作方法」→「ハードディスクのフォーマット」をご参照ください。

３．２　Windows® 2000 の場合

■ドライバのインストール

SCSI インターフェースを新規接続した場合（「/P」モデルの場合など）は、接続終了後、Windows 2000 のシステムを起動して、SCSI インターフェースのドライバをインストールしなければなりません。

この作業は使用する SCSI インターフェースによって異なりますので、SCSI インターフェースのマニュアルにしたがってインストールを行ってください。

参考

- **既存の**SCSI**インターフェースに本製品を接続した場合（すでにドライバがインストールされている場合）は、ドライバのインストールは必要ありません。**
- **ドライバのインストールが完了した時点では、まだ本製品のドライブアイコンは「マイコンピュータ」に登録されません。これが登録されるのは本製品のフォーマットが終了してからです。**
- SCSI**インターフェースによっては**Windows 2000**標準のドライバを使用するため、ドライバが不要な場合もあります。ご使用の** SCSI **インターフェースのマニュアルでご確認ください。**

3

■ハードディスクのフォーマット

次にハードディスク（本製品）のフォーマットを行います。Windows 2000 の場合、フォーマットはWindows 2000 標準のユーティリティ「ディスクの管理」から行います。「ディスクの管理」でフォーマットを行う概略の手順は以下の通りです。

Point

ポイント

本製品付属 CD-ROM に保存された補足説明ファイルには、より詳細なフォーマット手順が記載されています。必要に応じてご参照ください。（下記のファイルをダブルクリックすると、インターネット・エクスプローラなどで内容を表示することができます。）

ファイル名：　\Docs\Hdfmt2k\Index.htm

①管理者権限を持つグループ（例えば「Administrators グループ」）のメンバーとしてログオンします。

②デスクトップ上の「マイコンピュータ」を右クリックして、表示されるメニューから「管理」を選択します。

③「コンピュータの管理」のウィンドウが表されたら、コンソールツリー上で「記憶域」の下の「ディスクの管理」をクリックします。

Point

ポイント

ここで「ディスクのアップグレードと署名ウィザード」が起動した場合は、キャンセルボタンをクリックしてください。

④「ディスクの管理」が表示されたら、「不明」と書かれているディスクを右クリックして、表示されるメニューから「署名」を実行してください。

⑤署名したディスクの「未割り当て」と書かれた部分を右クリックして、「パーティションの作成」を選択してください。

⑥「パーティションの作成ウィザード」が起動したら、表示されるメッセージにしたがって作業を行ってください。

Point

ポイント

「パーティションの作成ウィザード」の中で、作成するパーティションを「プライマリパーティション」にするか、「拡張パーティション」にするかを選択するステップがあります。
通常は、「拡張パーティション」を選択し、拡張パーティションの中に論理ドライブを作成してください。

３．３　Windows® NT 4.0 の場合

■ドライバのインストール

SCSI インターフェースを新規接続した場合（「/P」モデルの場合など）は、接続終了後、Windows NT 4.0 のシステムを起動して、SCSI インターフェースのドライバをインストールしなければなりません。

この作業はSCSIインターフェースによって異なりますので、SCSIインターフェースのマニュアルにしたがってインストールを行ってください。

参考

- **既存のSCSIインターフェースに本製品を接続した場合（すでにドライバがインストールされている場合）は、ドライバのインストールは必要ありません。次の「ハードディスクのフォーマット」のみを行ってください。**
- **ドライバのインストールが完了した時点では、まだ本製品のドライブアイコンは「マイコンピュータ」に登録されません。これが登録されるのは次の「ハードディスクのフォーマット」が終了してからです。**

■ハードディスクのフォーマット

本製品のフォーマットにはWindows NT 4.0 標準のユーティリティ「ディスクアドミニストレータ」を使用します。Administrators グループでログオンして、ディスクアドミニストレータを起動し、フォーマットを行ってください。

■区画の容量制限について

Windows NT 4.0 は、１つの区画の容量に下表のような制限を持っています。

区画のタイプ	1区画の容量制限
FAT区画	4GB
NTFS区画	2,000GB

FAT区画の容量制限は4GBですが、2GBを超える区画を作成した場合、MS-DOS との互換がなくなるため、フロッピーディスクなどから従来のMS-DOS を起動しても、その区画は認識されません。

また、NTFS 区画は容量に関係なく MS-DOS との互換性を持ちません。

ご注意

NTFS **区画の容量制限は** Windows Me**，**98/95 **の** FAT32 **ファイルシステムと同じ** 2,000GB **ですが、この２つはまったく異なるもので、互換性がありませんのでご注意ください。**

３．４　Mac® OS の場合

本製品を Mac OS で使用する場合は、Macintosh 用フォーマッタ「B'sCrew 3 Lite」をインストールして、本製品のフォーマットを行う必要があります。（Macintosh 用フォーマッタ「B'sCrew 3 Lite」は、本製品付属の「LogitecWare」CD-ROM に収録されています。）

インストール手順、フォーマット手順については、「B'sCrew 3 Lite」のオンラインマニュアルをご参照ください。

第4章　補足事項

4．1　トラブルシューティング

●本製品を接続したら、システムが起動しなくなった。

○本製品のIDナンバーが他のSCSI機器と重複していないかどうか確認してください。

● Windows 環境で本製品が認識されない。

○本製品の電源の状態と接続の状態をもう一度確認してください。
○ SCSI インターフェースは正常に認識されていますか？ SCSI インターフェースのドライバはインストールされていますか？
○ハードディスクのフォーマットは行いましたか？

4

●時々エラーが発生するなど、本製品の動作が安定しない。

○ SCSI コネクタなどに接触不良はありませんか？
○ターミネータ表示ランプの状態を確認してください。本製品が終端となる位置に接続されている場合、本製品のターミネータ表示ランプは点灯していなければなりません。本製品が終端以外の位置に接続されている場合、ターミネータ表示ランプは消灯していなければなりません。この場合、終端に接続されている機器の内蔵ターミネータが有効になっているか、外付けターミネータが接続されていなければなりません。
○ケーブルが長すぎませんか？ 複数の機器を接続している場合は、本製品だけを接続して試してください。また、インピーダンスの低いケーブルはトラブルの原因となります。可能であればケーブルを交換して試してください。

●本製品を終端以外の位置に接続しているのに、ターミネータ表示ランプが点灯している。

○　本製品と同じようにオートターミネーション機能を持つ SCSI 機器を接続している場合は、必ず SCSI コネクタ IN を SCSI インターフェース側に、SCSI コネクタ OUT を終端側に接続されなければなりません。これを逆に接続すると、このような症状が発生します。

○　もし、どうしてもオートターミネーション機能が正常に動作しない場合は、終端以外の位置に接続した機器のオートターミネーション機能を、「無効」に設定してください。

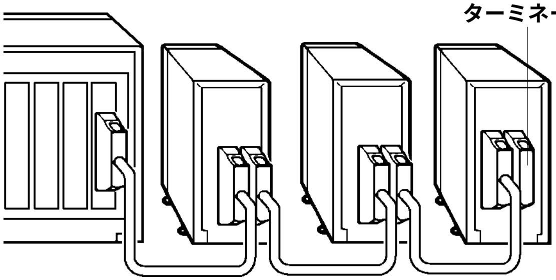
●その他：ソフトウェアの最新バージョン入手方法など

○弊社ではインターネット上にホームページを開設しています。ホームページにはソフトウェアのダウンロードコーナーもありますのでご活用ください。

ホームページアドレス：http://www.logitec.co.jp/

４．２　オートターミネーション機能について

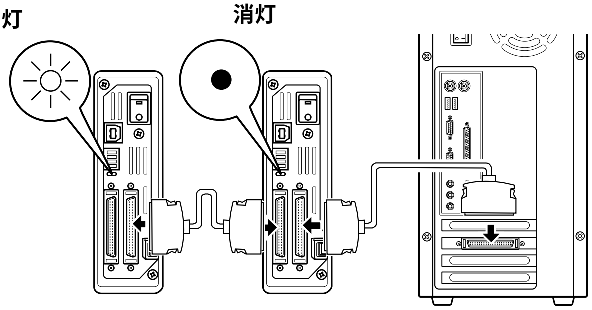
通常のSCSI接続では終端（SCSIインターフェースから最も遠い位置）となるSCSI機器に「ターミネータ」と呼ばれる部品を取り付けて、信号線を安定させる必要があります。



ところが、本製品はこの「ターミネータ」を内蔵して、さらに「オートターミネーション機能」を持っています。
「オートターミネーション機能」は、接続された位置を感知して、自動的に内蔵ターミネータを有効／無効に切り替える機能です。（内蔵ターミネータの状態は、背面のターミネータ表示ランプで確認することができます。）

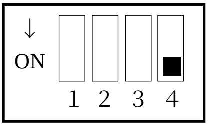
終端に接続すると、自動的に内蔵ターミネータが有効になります。

終端以外に接続すると、自動的に内蔵ターミネータが無効になります。

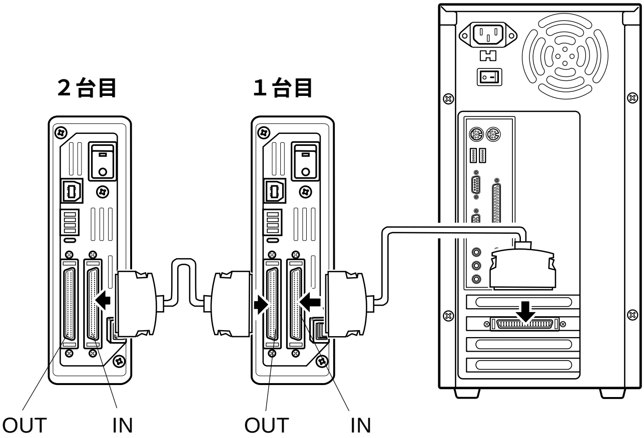


　このように便利なオートターミネーション機能ですが､これを正しく使用するためには２つ注意しなければならないことがあります。

１．オートターミネーション機能を使用する場合は、本製品のディップスイッチ４が初期設定どおり「自動」に設定されていなければいけません。



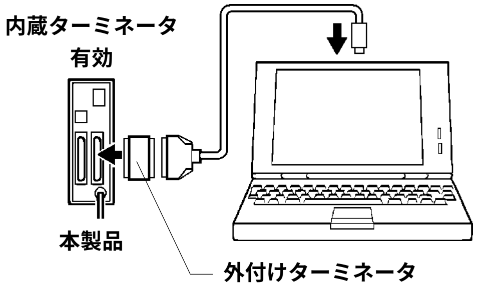
２．接続の際に、本製品のSCSIコネクタINがSCSIインターフェース側に、SCSIコネクタOUTが終端側（増設機器側）になるようにケーブルを接続しなければなりません。
正しく接続すると、下図のようにケーブルがOUTとINをつなぐ形になります。OUT同士やIN同士をつなぐのは間違った接続です。

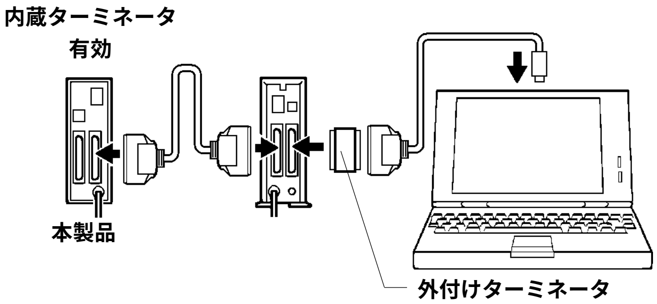


４．３　Macintosh PowerBook に接続する場合

Macintosh PowerBook シリーズの旧機種（HDI 30 ピンの SCSI コネクタを持つ機種で、Macintosh PowerBook 2400、3400、G3 を除くもの）では、SCSIインターフェースにターミネータが内蔵されていません。そのため、これらの機種では、SCSI 機器を挟み込むように２個のターミネータを必要とします。つまり本製品を終端の位置に接続して、内蔵ターミネータが有効になっていても、別途外付けターミネータが必要だということです。（Macintosh PowerBook 2400、3400、G3 はターミネータを内蔵していますので、外付けターミネータは必要ありません。）

Point





図のように外付けターミネータは、両端にSCSIコネクタを持つタイプ（両切）でなければなりません。本製品に接続可能な両切のターミネータは以下の型番で弊社より発売されています。

LSR-A52A（D-sub ハーフピッチ 50 ピン×２）

4

４．４　オプション品について

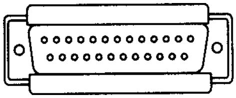
■ケーブル

ケーブル	長さ	SCSIコネクタ
CB-51WW-003	0.3m	D-subハーフピッチ50ピン D-subハーフピッチ50ピン
CB-51WW-008	0.8m	
CB-51HW-003	0.3m	アンフェノールハーフピッチ50ピン D-subハーフピッチ50ピン
CB-51HW-008	0.8m	
CB-2550D-005	0.5m	D-sub25ピン D-subハーフピッチ50ピン
CB-51HB-003	0.3m	アンフェノールフルピッチ50ピン D-subハーフピッチ50ピン
CB-51HB-008	0.8m	
CB-PBA50-005	0.5m	HDI30ピン D-subハーフピッチ50ピン

コネクタ形状

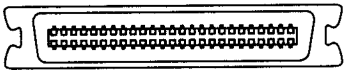
D-sub ハーフピッチ 50 ピン
（本製品のコネクタ形状）

HDI 30 ピン



D-sub 25 ピン

アンフェノール
ハーフピッチ 50 ピン



アンフェノール
フルピッチ 50 ピン

■ PCI バス用 SCSI インターフェースボード

SCSIインターフェース	バス	仕様	SCSIコネクタ
LHA-600U	PCI	UltraSCSI	D-subハーフピッチ 50ピン

※上記SCSIインターフェースボードは、「/P」モデルに標準添付されているものと同じです。

※上記 SCSI インターフェースボードは、DOS/V パソコン、PC98-NX シリーズ、PC-9800 シリーズ、Macintosh シリーズ共通で使用できます。

■ CardBus 用 SCSI インターフェースカード

SCSIインターフェース（PCカード）	バス	仕様	SCSIコネクタ
LPM-SCSI3D	Cardbus	UltraSCSI	D-subハーフピッチ 50ピン
LPM-SCSI3E			

※上記 SCSI インターフェースカードは、DOS/V パソコン、PC98-NX シリーズ、PC-9800 シリーズで使用できます。

SCSIインターフェース（PCカード）	バス	仕様	SCSIコネクタ
LPM-SCSI3E/M	Cardbus	UltraSCSI	D-subハーフピッチ 50ピン

※上記 SCSI インターフェースカードは Macintosh シリーズ専用です。

4

USB 編

目　次

第１章　はじめに 45
１．１　USB 接続の概要 45
１．２　使用環境について 46

第２章　Windows Me，98 の場合 47
２．１　接続とインストール（Windows Me） 47
２．２　接続とインストール（Windows 98） 50
２．３　フォーマットについて 54
２．４　本製品を取り外す場合は 56

第３章　Windows 2000 の場合 57
３．１　接続とインストール 57
３．２　フォーマットについて 61
３．３　本製品を取り外す場合は 62

第４章　Macintosh の場合 64
４．１　接続とインストール 64
４．２　フォーマット手順 68
４．３　本製品を取り外す場合は 70

第５章　補足事項 71
５．１　トラブルシューティング 71

第１章　はじめに

１．１　USB 接続の概要

本製品を USB インターフェースに接続する場合、以下のような特徴があります。

〇USB インターフェースは現在ほとんどのパソコンに標準搭載されています。インターフェースボードや PC カードを使用することなく、ほとんどのパソコンに直接接続することができます。

〇ホットプラグによる接続、取り外しが可能です。

〇本製品を USB インターフェースに接続する場合、電源供給はセルフパワー（電源コードからの電源供給）でなければなりません。バスパワー（USB インターフェースからの電源供給）では使用できませんので、必ず電源コードを AC100V のコンセントに接続してください。

１．２　使用環境について

1

本製品を USB インターフェースに接続する場合、以下のような環境条件を満足していなければなりません。

■対応パソコンについて

本製品を USB インターフェースに接続する場合は、以下のパソコン本体に接続可能です。すべて USB ポートを標準搭載している機種に限定されます。

各社	DOS/V パソコン
日本電気株式会社	PC98-NX シリーズ

アップルコンピュータ社

iMac シリーズ、iBook シリーズ
Power Macintosh G3（Blue and White）シリーズ
Power Mac G4 シリーズ、Power Mac G4 Cube
PowerBook G3（Bronze Keyboard）シリーズ
PowerBook （FireWire)シリーズ

■対応 OS について

本製品を USB インターフェースに接続する場合は、以下の OS をご使用ください。すべて日本語OSのみに限定されます。また、パソコン本体が対応していない OS では使用することができません。

マイクロソフト株式会社

Windows Me
Windows 98（Second Edition を含む）
Windows 2000

アップルコンピュータ社

Mac OS 8.6 〜 Mac OS 9.1

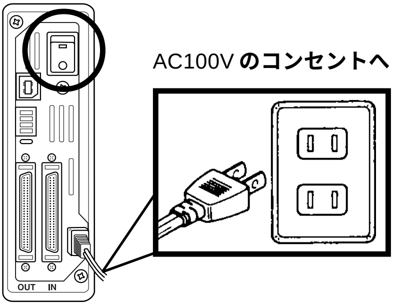
第２章 Windows® Me，98 の場合

２．１　接続とインストール（Windows Me）

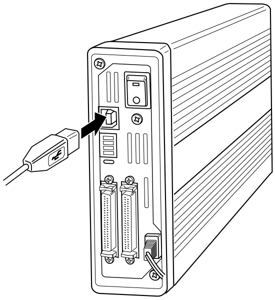
ここでは Windows Me 上で本製品を接続して、ドライバをインストールするまでの手順を説明します。以下の手順は Windows Me のシステムが起動した状態で行います。

①パソコン本体の電源を ON にして、Windows Me のシステムを起動しておいてください。

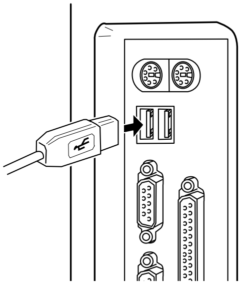
②本製品背面の電源コードを AC 100V のコンセントに接続して、本製品の電源スイッチを ON にします。



③本製品の電源表示ランプが点灯したことを確認して、付属の USB ケーブルで本製品の USB シリーズＢコネクタと、パソコン本体の USB ポートを接続してください。



本製品側
断面が正方形に近いコネクタ



パソコン本体側
断面が平たいコネクタ

④本製品がプラグ＆プレイで認識されて、「新しいハードウェアの追加ウィザード」が起動します。右下のウィンドウが表示されたら、本製品付属の「LogitecWare」CD-ROM を CD-ROM ドライブにセットしてください。

「適切なドライバ...」が選択されていることを確認して，CD-ROM をセット

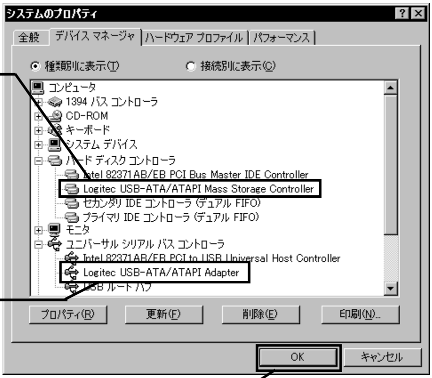
ポイント

ここでCD-ROMの自動挿入機能が有効になっていると、自動的にドライバの検索が開始されますので⑤に進んでください。 しばらく待っても何も起こらない場合は、「次へ」をクリックしてください。

⑤指定したドライバがインストールされます。作業が完了すると、右のウィンドウが表示されます。

「完了」をクリック

⑥以上で接続とインストールは終了です。ただし、現在の段階ではまだフォーマットが終了していないため、「マイコンピュータ」を開いても新しいハードディスクのアイコンは追加されていません。
インストール結果を確認したい場合は、「コントロールパネル」→「システム」を起動して、「デバイスマネージャ」タブをクリックしてください。以下のように2個のデバイスが登録されていたら、インストールは正常に終了しています。



1. **「ハードディスクコントローラ」の下に「**Logitec USB-ATA/ATAPI Mass Storage Controller**」があることを確認します。**
2. **「ユニバーサルシリアルバスコントローラ」の下に「**Logitec USB-ATA/ATAPI Adapter**」があることを確認します。**
3. **確認が終了したら、**OK **をクリックして、ウィンドウを閉じます。**

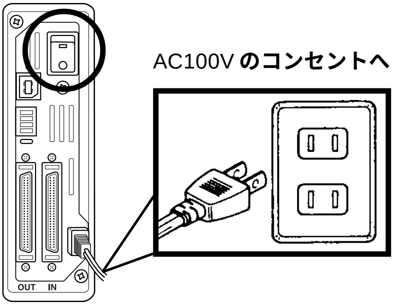
次に本製品のフォーマットを行いますので、２．３節に進んでください。

２．２　接続とインストール（Windows 98）

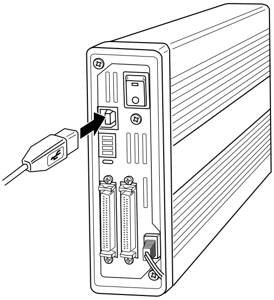
ここではWindows 98上で本製品を接続して、ドライバをインストールするまでの手順を説明します。以下の手順はWindows 98のシステムが起動した状態で行います。

①パソコン本体の電源をONにして、Windows 98のシステムを起動しておいてください。

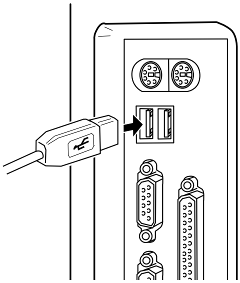
②本製品背面の電源コードをAC100Vのコンセントに接続して、本製品の電源スイッチをONにします。



③本製品の電源表示ランプが点灯したことを確認して、付属のUSBケーブルで本製品のUSBシリーズＢコネクタと、パソコン本体のUSBポートを接続してください。



本製品側
断面が正方形に近いコネクタ



パソコン本体側
断面が平たいコネクタ

④本製品がプラグ＆プレイで認識されて、新しいハードウェアの追加ウィザードが起動します。

「次へ」をクリック

⑤右のウィンドウが表示されます。

1. **「使用中のデバイスに・・・」が選択されている状態で**
2. **「次へ」をクリック**

⑥右下のウィンドウが表示されたら、CD-ROM ドライブに本製品付属の「LogitecWare」CD-ROM をセットしてください。

1. **「検索場所の指定」だけがチェックされた状態にして**
2. **ここに、以下のように入力して**

Q:\DRIVERS\USB01\WIN98

3. **「次へ」をクリック**

ポイント

ここで「Q:」はCD-ROM ドライブのドライブ名です。異なる場合は正しいドライブ名を指定してください。

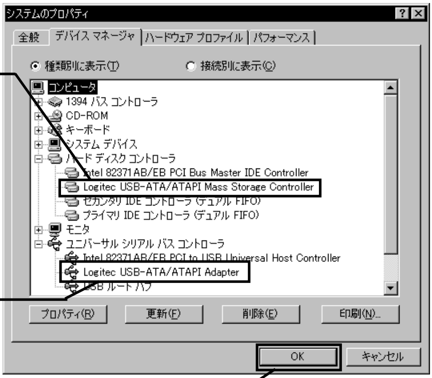
⑦右のウィンドウが表示されます。

「次へ」をクリック

⑧必要なファイルがシステムに転送され、右のウィンドウが表示されます。

「完了」をクリック

⑨以上で接続とインストールは終了です。ただし、現在の段階ではまだフォーマットが終了していないため、「マイコンピュータ」を開いても新しいハードディスクのアイコンは追加されていません。
インストール結果を確認したい場合は、「コントロールパネル」→「システム」を起動して、「デバイスマネージャ」タブをクリックしてください。次ページのように２個のデバイスが登録されていたら、インストールは正常に終了しています。



1. **「ハードディスクコントローラ」の下に「**Logitec USB-ATA/ATAPI Mass Storage Controller**」があることを確認します。**

2. **「ユニバーサルシリアルバスコントローラ」の下に「**Logitec USB-ATA/ATAPI Adapter**」があることを確認します。**

3. **確認が終了したら、**OK **をクリックして、ウィンドウを閉じます。**

次に本製品のフォーマットを行いますので、２．３節に進んでください。

2

２．３　フォーマットについて

Windows Me，98の場合、本製品のフォーマットは付属のユーティリティ「ディスクフォーマッタ」で行います。

本製品付属の「LogitecWare」CD-ROMをCD-ROMドライブにセットすると自動起動する「セットアップランチャー」から、「ディスクユーティリティ」をインストールしてください。（下図参照）

1.**「ディスクユーティリティ」のアイコンを１回クリックして、選択状態にします。**

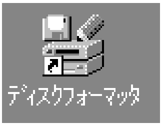
2.**「セットアップの起動」をクリックします。**

ポイント

ディスクユーティリティには「ディスクフォーマッタ」以外にも、「ディスクイジェクトツール」と「MO補助ドライバ」が含まれていますが、本製品を使用する上で必要なのは「ディスクフォーマッタ」のみです。（他のユーティリティをインストールしても特に害はありません。）

インストールが終了したら、ディスクフォーマッタを起動します。タスクバー上の「スタート」ボタンをクリックして、「プログラム」→「Logitec」とポイントし、「ディスクフォーマッタ」をクリックしてください。

また、インストール時、デスクトップ上にショートカットアイコンを作成した場合は、デスクトップ上の右のアイコンをダブルクリックしても起動することができます。



ディスクフォーマッタが起動したら、本製品のフォーマットを行います。フォーマットの手順については、ディスクフォーマッタのヘルプメニューから「トピックの検索」を選択し、表示されるヘルプウィンドウで「操作方法」→「ハードディスクのフォーマット」をご参照ください。

ご注意

本製品は物理フォーマットをサポートしていないため、ディスクフォーマッタの物理フォーマットに関する機能は使用できません。

2．4　本製品を取り外す場合は

本製品をUSBインターフェースに接続した場合、ホットプラグオフ（パソコン本体の電源がONの状態での取り外し）が可能です。しかし、これは「いつでも取り外して良い」という意味ではありません。本製品を取り外す場合は、必ず以下の手順に従ってください。

①本製品に保存されたアプリケーションやデータファイルが開かれていないことを確認してください。

②本製品を接続した状態では、タスクバーのシステムトレイに以下のようなアイコンが表示されます。このアイコンをクリックして、表示されるメニューから、「停止 - [DiskDrive] ****** ****** d:」を選択してください。

ポイント

- **「****** ******」には、本製品内蔵ハードディスクの型番が入ります。型番は容量などによって異なります。**
- **「d:」は本製品のドライブ名ですので、環境によって異なります。また、本製品がフォーマットされていない場合は、ドライブ名の文字（「d」の部分）が表示されません。**

④「デバイスは安全に取り外すことができます」と表示されたら、OKボタンをクリックしてください。

⑤USBケーブルを外し、本製品の電源をOFFにしてから、電源コードをコンセントから外してください。

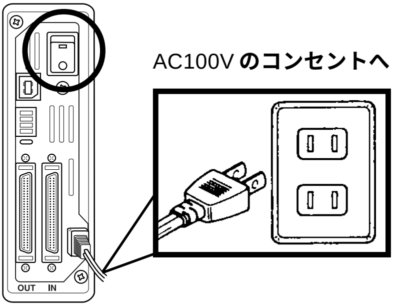
第３章　Windows® 2000 の場合

３．１　接続とインストール

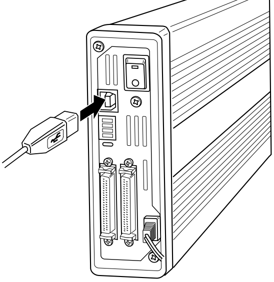
ここでは本製品を接続して､ドライバをインストールするまでの手順を説明します。以下の手順はWindows 2000のシステムが起動した状態で行います。

Point ①パソコン本体の電源をONにして、Windows 2000ののシステムを起動し、管理者権限を持つグループ（例えばAdministratorsグループ）のメンバーとしてログオンしてください。

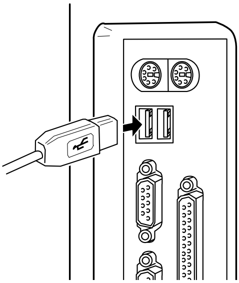
②本製品背面の電源コードをAC100Vのコンセントに接続して、本製品の電源スイッチをONにします。



③本製品の電源表示ランプが点灯したことを確認して、付属のUSBケーブルで本製品のUSBシリーズＢコネクタと､パソコン本体のUSBポートを接続してください。

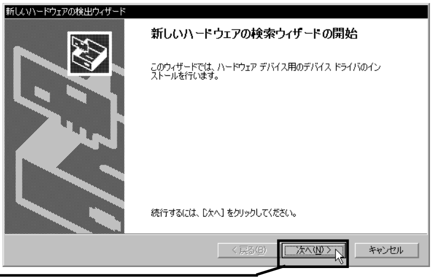


本製品側
断面が正方形に近いコネクタ



パソコン本体側
断面が平たいコネクタ

④本製品がプラグ＆プレイで認識されて、新しいハードウェアの検索ウィザードが起動します。



「次へ」をクリック

⑤右のウィンドウが表示されます。

1.**「デバイスに最適な・・・」が選択されている状態で**

2.**「次へ」をクリック**

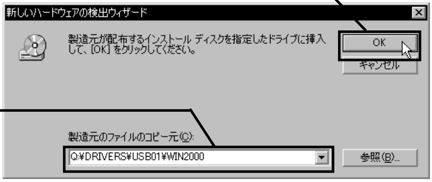
⑥右のウィンドウが表示されます。

1.**「場所を指定」だけがチェックされた状態にして**

2.**「次へ」をクリック**

⑦右下のウィンドウが表示されたら、CD-ROM ドライブに本製品付属の「LogitecWare」CD-ROM をセットしてください。

2.「OK」をクリック



1. **ここに、以下のように入力して**

Q:\DRIVERS\USB01\WIN2000

ポイント

ここで「Q:」はCD-ROM ドライブのドライブ名です。異なる場合は正しいドライブ名を指定してください。

3

⑧右のウィンドウが表示されます。

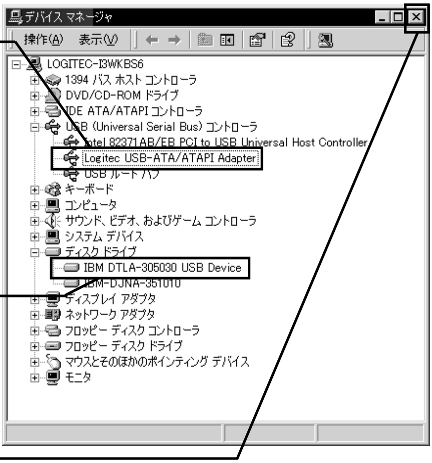
「次へ」をクリック

⑨必要なファイルがシステムに転送され、右のウィンドウが表示されます。

「完了」をクリック

⑦以上で接続とインストールは終了です。ただし、現在の段階ではまだフォーマットが終了していないため、「マイコンピュータ」を開いても新しいハードディスクのアイコンは追加されていません。
インストール結果を確認したい場合は、「コントロールパネル」→「システム」を起動して、「ハードウェア」タブをクリックし、表示される「デバイスマネージャ」ボタンをクリックしてください。以下のように２個のデバイスが登録されていたら、インストールは正常に終了しています。

1. **「**USB (Universal Serial Bus) **コントローラ」の下に「**Logitec USB-ATA/ATAPI Adapter**」があることを確認します。**
2. **「ディスクドライブ」の下に「**USB Device**」で終わるデバイスがあることを確認します。**
3. **確認が終了したら、クローズボックス（×）をクリックして、ウィンドウを閉じます。**



次に本製品のフォーマットを行いますので、３．２節に進んでください。

３．２　フォーマットについて

Windows 2000 の場合、フォーマットは Windows 2000 標準のユーティリティ「ディスクの管理」から行います。「ディスクの管理」でフォーマットを行う概略の手順は以下の通りです。

Point

ポイント

本製品付属 CD-ROM に保存された補足説明ファイルには、より詳細なフォーマット手順が記載されています。必要に応じてご参照ください。（下記のファイルをダブルクリックすると、インターネット・エクスプローラなどで内容を表示することができます。）

ファイル名：　\Docs\Hdfmt2k\Index.htm

①管理者権限を持つグループ（例えば「Administrators グループ」）のメンバーとしてログオンします。

②デスクトップ上の「マイコンピュータ」を右クリックして、表示されるメニューから「管理」を選択します。

③「コンピュータの管理」のウィンドウが表されたら、コンソールツリー上で「記憶域」の下の「ディスクの管理」をクリックします。

Point

ポイント

ここで「ディスクのアップグレードと署名ウィザード」が起動した場合は、キャンセルボタンをクリックしてください。

④「ディスクの管理」が表示されたら、「不明」と書かれているディスクを右クリックして、表示されるメニューから「署名」を実行してください。

⑤署名したディスクの「未割り当て」と書かれた部分を右クリックして、「パーティションの作成」を選択してください。

⑥「パーティションの作成ウィザード」が起動したら、表示されるメッセージにしたがって作業を行ってください。

Point **ポイント**

「パーティションの作成ウィザード」の中で、作成するパーティションを「プライマリパーティション」にするか、「拡張パーティション」にするかを選択するステップがあります。
本製品では必ず「拡張パーティション」を選択し、拡張パーティションの中に論理ドライブを作成してください。

3

３．３　本製品を取り外す場合は

本製品をUSBインターフェースに接続した場合、ホットプラグオフ（パソコン本体の電源がONの状態での取り外し）が可能です。しかし、これは「いつでも取り外して良い」という意味ではありません。本製品を取り外す場合は、必ず以下の手順に従ってください。

①本製品に保存されているアプリケーションやデータファイルが開かれていないことを確認してください。

②本製品を接続した状態では、タスクバーのシステムトレイに以下のようなアイコンが表示されます。このアイコンをクリックして、表示されるメニューから、「LOGITEC USB-ATA/ATAPI Adapter - ドライブ（d:）を停止します」を選択してください。

ポイント

ここで「d:」は本製品のドライブ名ですので、環境によって異なります。また、本製品がフォーマットされていない場合は、ドライブ名の文字（「d」の部分）が表示されません。

④「'LOGITEC USB-ATA/ATAPI Adapter' は安全に取り外すことができます」と表示されたら、OK ボタンをクリックしてください。

⑤ USB ケーブルを外し、本製品の電源を OFF にしてから、電源コードをコンセントから外してください。

第４章　Macintosh®の場合

４．１　接続とインストール

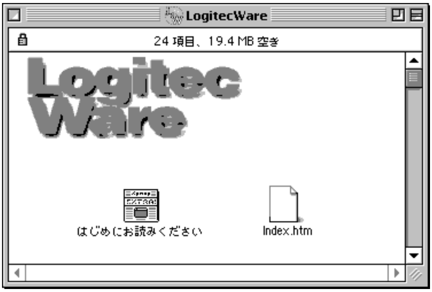
ここでは本製品のドライバをインストールして､本製品を接続するまでの手順を説明します。

4

①本製品を接続していない状態で、Macintosh のシステムを起動してください。

②「LogitecWare」CD-ROM を CD-ROM ドライブにセットしてください。

③CD-ROM のウィンドウが開きますので､「Index.htm」と書かれたアイコンをダブルクリックして開いてください。



④右のようなウィンドウがブラウザで表示されます。
ここで左のメニューから､「ドライバ」をクリックしてください。

この項目をクリック

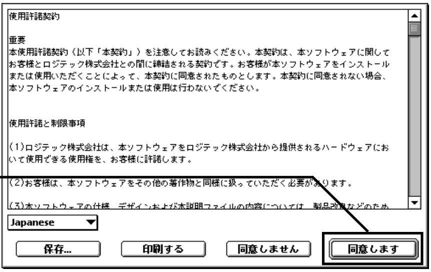
⑤メニューの右側に、収録されたドライバの一覧が表示されます。これをスクロールして、「LHD-HSU, ESUシリーズ USBディスクドライバ」を探し、「ディスクドライバインストーラ」と書かれた部分をクリックしてください。

この部分をクリック

⑥インストーラが起動して、右のウィンドウが表示されます。

内容を確認して、
「続ける」をクリック

⑦使用許諾等が表示されます。



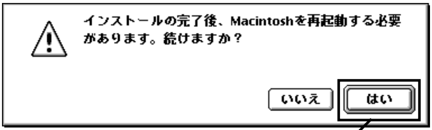
内容を確認して、同意する場合は
「同意します」をクリック

⑧付属のフォーマッタをインストールするフォルダを選択するウィンドウが表示されます。

特に支障ない場合は、そのまま
「インストール」をクリック

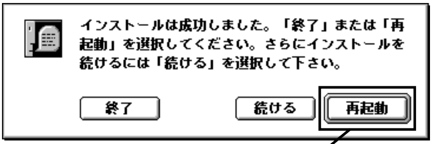
4

⑨インストールの最後にシステムが再起動されるため、確認メッセージが表示されます。



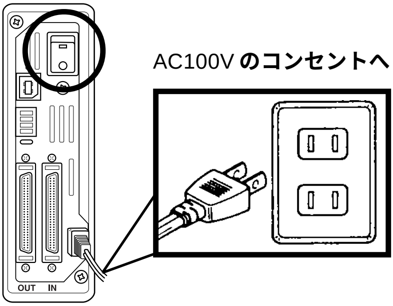
他のプログラムなどが起動していないことを確認したら、「はい」をクリック

⑩必要なファイルが転送されます。終了すると右のウィンドウが表示されます。



「再起動」をクリック

⑪システムが再起動したら、ドライバのインストールは完了です。CD-ROMをドライブから取り出しておいてください。
続いて接続を行います。本製品背面の電源コードをAC100Vのコンセントに接続し、本製品の電源スイッチをONにしてください。

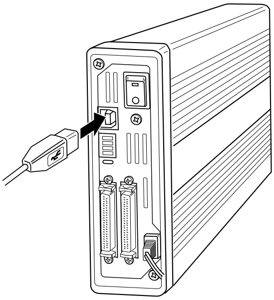


Point

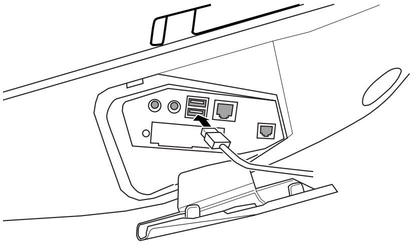
ポイント

以下の接続は、本製品、パソコン本体の電源がON になっている状態で行います。

⑫付属のUSBケーブルで本製品のUSBシリーズＢコネクタと、パソコン本体のUSBポートを接続してください。

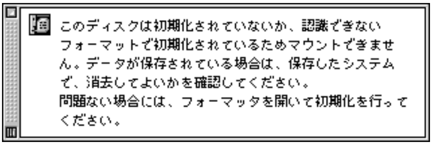


本製品側
断面が正方形に近いコネクタ



パソコン本体側
断面が平たいコネクタ

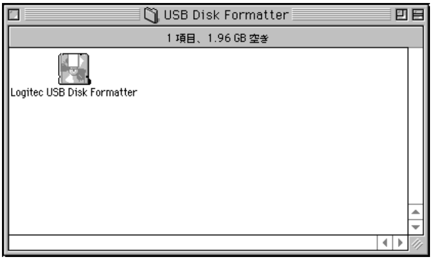
⑬本製品は、出荷時フォーマットされていないため、接続すると右のようなエラーメッセージが表示されますが、これは問題ありません。メッセージウィンドウをクローズして、次節で説明するフォーマット作業を行ってください。



4

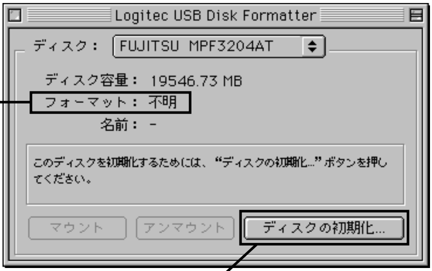
４．２　フォーマット手順

①本製品を接続した状態で、ドライバのインストール時に作成された「USB Disk Formatter」フォルダを開き、「Logitec USB Disk Formatter」アイコンをダブルクリックしてください。



②フォーマッタが起動して、右のウィンドウが開きます。

本製品は出荷時、フォーマットが行われていないため、「フォーマット」の欄に「不明」と表示されます。

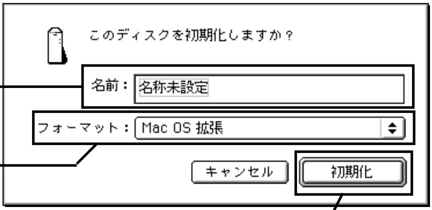


内容を確認したら、「ディスクの初期化」ボタンをクリックしてください。

③右下のウィンドウが表示されます。必要に応じて設定等を行ってください。

ボリュームに名前をつけたい場合は、ここに入力します。

フォーマット形式を選択したい場合はこのプルダウンメニューを開きます。（次ページの「ポイント」参照）



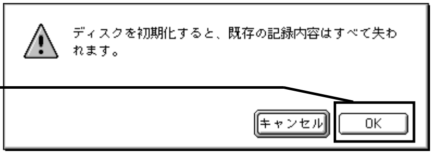
設定が終了したら、「初期化」ボタンをクリックしてください。

Point ポイント

「フォーマット」形式には、「Mac OS 標準」と「Mac OS 拡張」があります。通常の場合は「Mac OS 拡張」を選択してください。本製品のような大容量ハードディスクを「Mac OS 標準」形式でフォーマットすると保管効率が悪くなります。また、本製品の容量によっては、「Mac OS 標準」が選択できない場合もあります。

④確認のメッセージが表示されます。

フォーマットしてもいいことを確認したら、OKボタンをクリックしてください。



⑤フォーマットが実行されます。通常の場合、フォーマットは数秒で終了し、右のウィンドウに戻ります。

フォーマット形式が選択したものになっていることを確認してください。

⑥以上で本製品のフォーマットは終了です。メニューバーの「ファイル」メニューから「終了」を選択して、フォーマッタを終了してください。

参考

フォーマッタのウィンドウで表示される「マウント」ボタン、「アンマウント」ボタンは、本製品を強制的にマウント、もしくはアンマウントするためのものです。

- **何かの原因で、本製品を接続してもボリュームが自動的にマウントされない場合は、「マウント」ボタンをご使用ください。**
- **何かの原因で、通常の手段（次節参照）で本製品がアンマウントできなくなってしまった場合は、「アンマウント」ボタンをご使用ください。**

４．３　本製品を取り外す場合は

本製品をUSBインターフェースに接続した場合、ホットプラグオフ（パソコン本体の電源がONの状態での取り外し）が可能です。しかし、これは「いつでも取り外して良い」という意味ではありません。取り外し時には以下のような点にご注意ください。

○本製品を取り外す前には、必ずアンマウントを行ってください。アンマウントは、以下のいずれかの操作で行います。

- 本製品のアイコンをゴミ箱のアイコンに重ねる。
- 本製品のアイコンを１回クリックして選択状態にし、「特別」メニューから「取り出し」を選択する。
- 本製品のアイコンを１回クリックして選択状態にし、アップルキー＋「E」キーを押す。

○パソコン本体がスリープ状態になっているときは、取り外しを行わないでください。

○本製品を取り外す場合は、USBケーブルのパソコン本体側のコネクタを先に外してください。

第５章　補足事項

５．１　トラブルシューティング

●本製品を接続したが認識されない。

○電源スイッチの状態、電源コードを接続したコンセントの状態を確認してください。
○ USB ケーブルの接続に接触不良などがないかどうか確認してください。
○ドライバは正しい手順でインストールされていますか？
○本製品を USB ハブ経由で接続している場合は、パソコンの USB ポートに本製品だけを直接接続して試してみてください。

●本製品からシステム起動ができない。

○ USB 機器からのシステム起動はサポートされていません。

●本製品の物理フォーマットができない。

○本製品は物理フォーマットをサポートしていません。論理フォーマット（通常のフォーマット）のみでご使用ください。

● Windows 2000 で「ディスクの管理」が起動できない。

○「ディスクの管理」を起動するには、管理者権限を持つグループ（例えば「Administrators」グループ）のメンバーとしてログオンしていなければなりません。

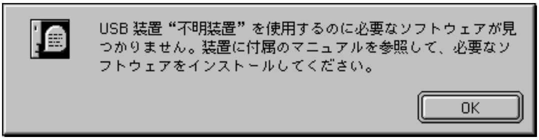
●特定のソフトウェア（ディスク修復ツールなど）で本製品を使用できない。

○一部のユーティリティソフトウェアでは、USB や IEEE1394 のようにホットプラグ対応のインターフェースで接続したハードディスクを動作対象としていない場合があります。ソフトウェアメーカーに問い合わせて、そのソフトウェアが USB 接続のハードディスクを動作対象としているかどうかを確認してください。

●スリープ状態から復帰できない。

○パソコンのスリープ（サスペンド）状態の処理方法により、このような現象が発生する場合があります。ご使用のパソコンによっては、パソコン本体メーカから供給されるアップデートプログラム等によりこの現象を回避できる場合もあります。
アップデートプログラム等が用意されていない場合は、スリープ（サスペンド）機能をOFFにしてご使用ください。

● Macintoshシリーズで本製品を接続すると、以下のようなエラーメッセージが表示される。



○本製品のドライバがインストールされていません。第４章にしたがって、ドライバのインストールを行ってから、本製品を接続してください。

● Macintosh環境で本製品のドライバをアンインストールしたい。

○システムフォルダの機能拡張フォルダにコピーされた以下のファイルを削除してください。

Logitec USB-C Driver
Logitec USB-C Shim

●その他：弊社ホームページについて

○弊社ではインターネット上にホームページを開設しています。ホームページにはソフトウェアのダウンロードコーナーや、各種製品に関するQ&Aコーナーがあります。また、「サポート情報」では「お問い合わせ用紙」や「修理依頼書」などが、PDF形式でダウンロード可能になっていますのでご活用ください。

ホームページアドレス：http://www.logitec.co.jp/

LHD-ESU/HSU V02A

ロジテック株式会社
http://www.logitec.co.jp/